

ジャイアントパンダ シャンシャン公開までの記録

シャンシャンすくすく6カ月

Xiang Xiang's First Six Months





ジャイアントパンダと私たちの将来を切り開く 大切な1頭“シャンシャン”

恩賜上野動物園 園長 福田 豊

Xiang Xiang-looking towards future conservation

Yutaka Fukuda, director

1972年に日本で初めてジャイアントパンダが上野動物園にやってきてから、今年で45年になります。この記念すべき年に、新たなジャイアントパンダ「シャンシャン」を皆さんに紹介できることになり、大変嬉しく思います。この世界的にも注目度の高い希少動物を飼育し、繁殖させることは決して平坦な道のみではありませんでした。これまで関わった多くの先輩方のチャレンジと経験の積み重ね、中国野生動物保護協会をはじめ非常に多くの方々のご協力、そして献身的に取り組んだスタッフの努力の賜物です。

ところで「1864」という数字、何かお分かりになりますか。これは2015年に調査された野生のジャイアントパンダの頭数です。飼育されている数を合わせても約2300頭しかいません。私たちはもっとジャイアントパンダを増やし、帰るべき自然を守っていかねばならないのです。シャンシャンはこの将来を切り開くための貴重な1頭であり、これから無事に成長し、つがい相手を見つけ、命をつなぐという大切な使命を持っているのです。

私たちはそのために、世界中の人たちから愛されるようシャンシャンを大切に育てていきたいと思っています。今後とも、皆さまのご協力とご声援をお願いいたします。

Arrival and pairing of
Xiang Xiang's parents

リーリーとシンシンの 来園から自然交配まで

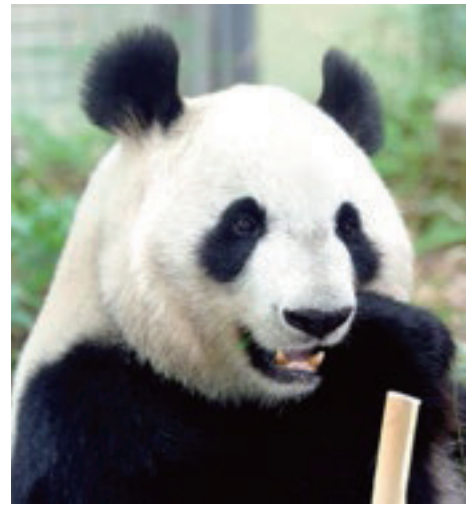


2011年2月21日 2頭のジャイアントパンダ
「リーリー」と「シンシン」が来日（写真は成田空港到着時）

3年間のジャイアントパンダ不在の期間を経て、上野動物園に期待の2頭がついにやってきました。到着直後からタケを食べて大物ぶりを見せてくれたメスの「シンシン」と、慎重派ながら木に登るなど活発に動き回るオスの「リーリー」。中国と日本での2回の大地震を乗り越え、日本のみなさんの前にお目見えしたのは震災による閉園期間が明けた2011年4月1日でした。



リーリー（オス）2011年撮影
2005年8月16日 中国四川省臥龍保護センター生まれ



シンシン（メス）2011年撮影
2005年7月3日 中国四川省臥龍保護センター生まれ



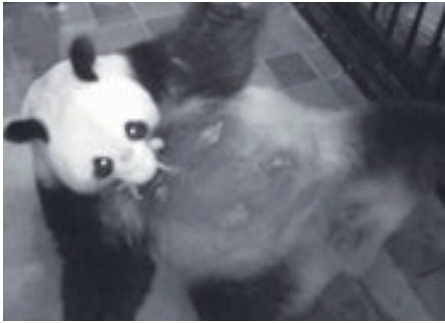
2017年2月27日 交尾を確認

2頭は、絶滅の危機にあるジャイアントパンダを守るため、東京都と中国野生動物保護協会の間で結ばれた協定に基づきやってきました。目的は日本でパンダを繁殖させ、数を増やしつつ中国での保護を進めること。そのため、到着した年から繁殖に向けてさまざまな努力を行いました。2012年には自然交配による出産に成功、しかし残念ながら6日後に子どもは死亡しました。翌年は偽妊娠、その後も交尾に至らない年が続きましたが、2017年の2月に再び自然交配に成功したのです。

シャンシャンの 誕生から公開まで



ついにこの時がやってきました。2017年6月12日、リー・シンシンにとっては2頭目の子どもの誕生です。直後から大きな鳴き声をあげ、夜にはお乳を飲む姿も見られました。子どもの体重はたったの147g、親の千分の一程度の大きさです。職員は24時間体制で細心の注意を払いつつ、親子を見守りました。



2017年6月12日午前11時52分 誕生
元気な鳴き声を確認



(上) 生後5日 まだ全体的にピンク色
(下) 生後30日 白黒模様がはっきり



生後30日

生後60日



(右) 生後70日 10日ごとに身体検査を実施
(左) 9月25日 名前はシャンシャン(香香)に決定

シンシンは出産直後から子どもを抱きかかえ、舐めたり、お乳をあげたり、排泄を促したりと献身的に世話を続けました。その甲斐あって子どもはすくすくと成長し、生後10日過ぎにはメスと判明、生後30日では体重約1.2kg、体長約30cmであったのが、生後100日には体重約6.0kg、体長約65cmになりました。名前を公募したところ約32万件もの応募があり、そのなかから「シャンシャン(香香)」という素敵な名前をつけることができました。

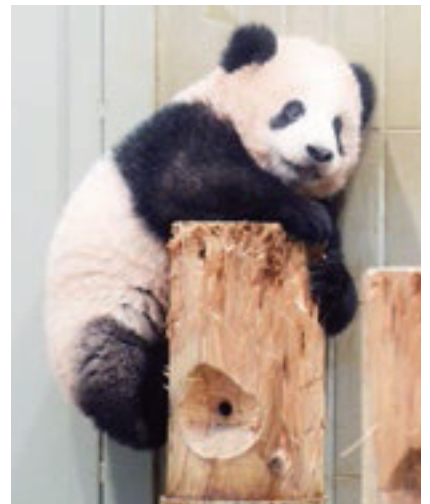


生後 150 日



生後 100 日

シャンシャンは生まれてからしばらくの間、母親と一緒に「産室」の中で一日中過ごしていましたが、徐々に母親のシンシンと離れて過ごす時間も多くなりました。目が見えるようになり、足腰がしっかりしてきて行動範囲も広がってきたため、屋内展示場など自由に行き来できるようにしたところ、早速木登りにチャレンジするなど元気に動き回りました。



生後 150 日 初めて丸太の登頂に成功



生後150~160日

シャンシャンがほんのりピンク色なのは、母親のシンシンがたくさん舐めてお世話をしていることが理由のようです



生後160日の身体検査では体重が10kgを超えました。一日の大半を寝て過ごしますが、起きていたときは何にでも好奇心いっぱい、元気いっばいに活動しています。丸太の上に登ったり、シンシンにじゃれついたり、まねをしてタケの葉を口に入れたり、いろいろな行動は全て立派な大人のパンダになるための大切なトレーニングです。まだ、シャンシャンの食べ物は母親のお乳ですが、これから数ヵ月後には乳離れをして大人と同じタケを食べるようになります。そして、1歳半から2歳ごろまでに親離れをして1頭で生活するようになるのです。



上野動物園の 歴代パンダたち

Ueno Zoo's
Panda
Family Tree



上野動物園での繁殖の取り組み

ランランとカンカン

若いうちに来日した2頭は、2年の準備期間の後、1974年繁殖のための同居を始めました。初めて2頭が交尾に成功したのは、1977年。その後、毎年交尾は確認されましたが、出産にはならず、1979年にランランが死亡。死後、妊娠していたことがわかりました。

人工授精

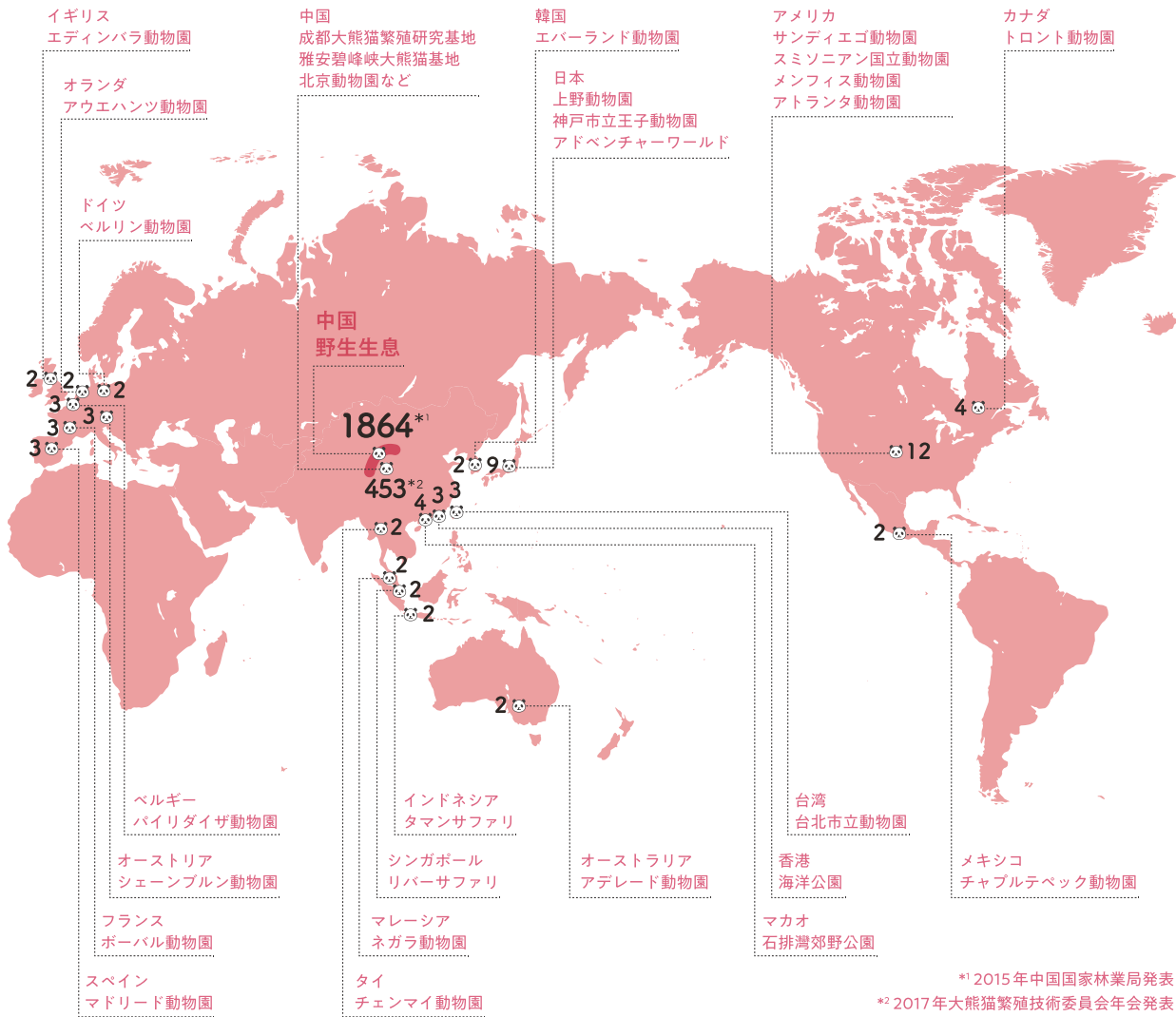
1985年3月9日に、フェイフェイとホアンホアンとの自然交配は無理だと判断し、日本で初めての人工授精を実施しました。同年6月に第一子が生まれたのを皮切りに、1986年と1988年にも人工授精を行い、繁殖に成功しました。

トントンの誕生

第一子が生育しなかったことを受けて、落ち着いて子育てに専念できる環境づくりを優先させることにしました。薄暗く、観察が難しい中で、トントンの産声が聞こえたのが6月1日7時1分。担当者が実際に子どもを肉眼で確認したのは、生後14日経ってからでした。



ジャイアントパンダの生息数及び飼育頭数



*1 2015年中国国家林业局発表

*2 2017年大熊猫繁殖技術委員会年発表

その他は2017年11月現在

SAVE the PANDA

飼育繁殖技術の向上により、今年是世界中の施設で58頭の子が生まれ育ち、飼育下のパンダは*520頭となりました。ようやく遺伝的な多様性を保つのに必要な数になり、野生復帰の取り組みも始まっています。しかし、生息地の開発や密猟など野生のパンダへの脅威はまだ続いています。中国野生動物保護協会の保護資金は、パンダが安心してくらせる竹林の保全や環境整備にも役立てられています。皆さまからお寄せいただいたジャイアントパンダ保護サポート基金も、その一部となっています。パンダとくらす地球を守るため、これからも上野動物園の取り組みは続きます。どうぞご支援をお願いいたします。

* 2017年大熊猫繁殖技術委員会年発表

未来をつくる、パンダたち

2017年は日本のほかに、フランスで1頭、中国で56頭のジャイアントパンダが飼育下で生まれて育っています。シャンシャンと共に成長し、いつか一緒に繁殖に取り組む相手になるかもしれません。世界中の飼育施設が協力しあい、次の世代を育てているのです。

パンダとくらす未来のために

ジャイアントパンダが種として登録されたのは1869年、今から148年前のことです。ユニークな姿に世界中がとりこになりました。初めて多くの人が生きたパンダを見たのは今から80年前(1937年)。その後、北京動物園で初めて繁殖に成功したのが54年前(1963年)。そして上野動物園に、日本初のジャイアントパンダがやってきたのは45年前(1972年)です。



フランス ボーバル動物園で生まれたパンダ(オス)



本書の内容の一部または全部を無断転載・販売することを固く禁じます

『シャンシャンすくすく6カ月』 2017年12月発行 公益財団法人東京動物園協会 恩賜上野動物園